

とみおかまち



福島県
富岡町

支援員だより

vol.15

[発行日]
2021年2月5日



発行 富岡町県外避難者支援拠点事務所 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21 一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会 内

お困り事など、どうぞお気軽に！
ご連絡待っているっぴ



TEL 048-832-0600

FAX 048-833-8746

MAIL tomioka_saitama@eos.ocn.ne.jp

富岡町県外避難者支援拠点事務所の 6年間を振り返って



富岡町民のみなさま、こんにちは。

早いもので原発事故から10年が経過しようとしています。

振り返ってみますと、当時小学生だった子ども達も大学生あるいは社会人となり、誰もが10歳年を重ねてきました。みなさまそれぞれの環境下で紆余曲折があり、今日があることと思います。

さて、さいたま市にある富岡町県外避難者支援拠点事務所は、2014年1月より、富岡町民を中心とした復興支援員4名でスタートしました。

開所時には約2,250世帯、約4,500名が福島県外へ避難（以下「県外避難者」という）していましたが、2020年12月現在は約1,160世帯、約2,100名と半減しています。なお、開所時の県外避難者の内、約70%は関東圏に避難されていました。

当事務所では、「県外避難者を孤立させない」を旗印に6年間活動してきた中で、前半の3年間は戸別訪問、電話訪問、交流会の開催（桜まつりへの参加、町民旅行、出張サロンの開催等）を無我夢中で行いま

した。後半の3年間はそれらの活動に加え、訪問や電話による面談の結果、継続的に支援した方が良いと思われる世帯を中心に支援活動を展開してきました。しかしながら、令和2年度はコロナ禍の影響で、対面による支援活動がほとんど出来ず、電話での対応が唯一の面談手段となってしまいました。

6年間の支援活動を通じて思うことは、望郷の念が強い高齢者、現実を見据え帰郷を断念した現役世代、住めば都の子ども達など、世代や環境によって様々な考え方があるということで、10年の歳月の重みを感じざるを得ません。

最後に、富岡町にゆかりのある復興支援員は少なくなりましたが、復興支援員一同、みなさまの為に「何かのお役に立ちたい」という思いは変わりません。

今後とも何なりと富岡町県外避難者支援拠点事務所へご相談・ご連絡頂ければ幸いです。

（復興支援員一同）

皆さん
お元気です！



※撮影のため、ソーシャルディスタンスを確保した上で一時的にマスクを外しています



茨城県（つくばみらい市）



神奈川県（横浜市）

頑張る富岡町民に

エール



荒引さんは東京都内で10年間ギターの流しをしていましたが、30代で富岡町に戻り、そば店『立花』を開業。その傍ら、ボランティアで高齢者福祉施設において歌や和太鼓演奏の慰問活動をしており、テレビやラジオにも出演していました。

んだべー福島



荒引 定男さん
(本町)

2020年11月29日
「ニューサンピア埼玉おごせ」にて

東日本大震災後は、避難所を転々とし、現在は親戚がいる埼玉県深谷市に避難されています。

避難生活では、落ち込むような日々でも、周りの人の厚意に支えられ、嬉しくて涙がこぼれたこともあったそうです。生活が落ち着いた頃から、お世話になった人たちに感謝の気持ちを伝えたいと思うようになり、演奏活動を再開しました。

故郷の話を交え、ギターとハーモニカを演奏しながら自作の歌を「福島弁」で感情を込めて歌い上げるのが、荒引さんのスタイル。「放射能のバカヤロー」という心の叫びや、故郷の空・山・川が忘れられないという切ない思いを込め、避難者の代弁者、そして語り部として、演奏活動を続けています。空手と太鼓を組み合わせたパフォーマンスも繰り広げ、観客の心に感動を届けています。

荒引さんは「原発事故が風化しないように、また、震災支援への感謝、親への感謝を込めて演奏活動を続けたいです。」と熱く語っておられました。

京子さんは、NHK東京児童合唱団に所属し、武蔵野音楽大学声楽科を卒業するなど、声楽を学んでこられました。また、日本舞踊の名取でもあり、歌舞伎で有名な坂東三津五郎さんの孫弟子でもあります。

結婚を機に富岡町に移り、35年間暮らしました。三人の男の子を育て上げるとともに、幼いころからの音楽活動を続けていました。

東日本大震災後は、生まれ育った埼玉県を生活の拠点に選びました。現在は、富岡町・さいたま市・いわき市・郡山市で演奏活動を続け、また、富岡町生涯学習教育教室の“楽しく歌う会”“みんなで歌う会”の指導にあたっておられます。また、2018年・2020年には、高校の同期生3人で始めたクラシックコンサート『愛歌詩阿(あかしあ)』を開催。2020年のコンサートは、新型コロナウイルスの感染が拡大する直前の2月だったため何とか開催することができました。

現在はコロナ禍で練習もままならず苦労をされているようですが、地域活動の一環として自治会の依頼で小規模なクリスマスコンサートを開くとのことでした。コロナに負けず音楽活動を精力的にされており、音楽に対する情熱を感じました。

富岡町に対する思いは強く、「普段から小・中学生の若いエネルギーを感じることができる、歌声が響くような町になってほしい。」と語っておられました。



宇佐見 京子さん
(王塚)

2020年12月8日
さいたま市自宅にて

福島県双葉郡のみなさん全員集合!!

交流会 2020

パターゴルフ&散策

11月20日(金)、一般社団法人ふうあいねっと(茨城県)主催の『福島県双葉郡のみなさん全員集合交流会2020パターゴルフ&散策』が、国営ひたち海浜公園で開催されました。

久しぶりの交流イベントでしたが、新型コロナウイルスの影響もあり、参加者は4名(うち富岡町民2名)でした。

当日の海浜公園は、季節外れの暖かさで、保育園の遠足や中・高生の修学旅行など多くの団体客が来園されていました。海浜公園は広大な敷地なので、三密にはならず交流を楽しむことができました。

パターゴルフは、富岡チーム対浪江チームの対戦となり、



我々支援員も一緒にプレーしました。狙いを定めて打ったボールが丘を登り切れずにコロコロと元の場所へもどったり、今度は力を入れてパカーンと打つと、丘を越えてコロコロと遙か彼方へいってしまったりしましたが、開放的な場所でのパターゴルフで、楽しい時間を過ごすことができました。

コロナ対策により時間を短縮して行なわれましたが、コロナ禍でのイベント開催に一筋の光が見えた交流会となりました。